

私と競馬

函館五稜郭病院
ありおか しゅん
有岡 駿

「賭博とは、さらに大きな価値のあるものを得たいという希望のもと、価値のあるものを危険にさらすことである」

精神科でおなじみDSM-5では、賭博についてこのように定義されている。多くの場合、価値のあるもの＝お金、ということになる。私は現在、競馬にはまっている。賭博について自戒の意味を込めて、今回のエッセイを書きたいと思う。

自分が競馬に出合ったのは大学4年生の時の帯広旅行の際に行ったばんえい競馬だ。通常の競馬とは異なり、馬は最大1トンのソリを引いて直線コースを走る。スピードが遅いので、観客は馬を応援しながらすぐ横を並走でき、これがまた面白い。初めての競馬で、単勝500円の馬券を握りしめ、必死になって馬を応援した。結果は惨敗だったが、「この500円が何倍、何十倍に膨らむかも」という興奮がたまらなかった。

札幌に帰ってからというもの、その後2年間は競馬に触れる機会はなかった。競馬場に向かなければできないものと思い込んでいた。そんなある日、部活の後輩からネット投票というものがある、という話を聞いた。すぐに登録した。学生でお金がなかったため、100円単位で細々と楽しんだ。

医師国家試験に無事合格し、働き出してからというもの、当然ではあるが学生時代のバイトとは桁違いの収入を得るようになった。そうなると掛け金を増やさねば楽しめなくなるのもまた当然で、1,000円単位で賭けるようになった。それでも1日負けても5,000円までと決め、その範囲内で楽しんでた。そんなある日、研修で回っていた麻酔科の上級医から、「WIN5」なる競馬の賭け方があることを聞く。決められた5レースの1着を全て的中すると、的中者で集まった5億円程度を山分けできるというものらしい。配当は的中の難易度によってさまざまで、少ない時には数万円から、多いときで数億円までゲットできる可能性のある夢のある賭け方なのである。その週末、早速賭けてみた。1回目いきなり的中した。百万円以上の配当だった。何が起きたか分からなかった。脳内がドーパミンで満たされるのを感じた。

それからというもの、毎週数万円、多い時には10万円以上をWIN5につき込む生活が数週間続いた。泡銭を投じる分には問題ない、そしてまた当てれば大金が手に入るのだ。正常な感覚はなくなっていた。

その頃、研修で回っていた精神科で、好きなテーマについてスライドを作り発表する機会があった。



北海道札幌市出身。北嶺高校卒業後、札幌医科大学医学部へ入学。現在は函館五稜郭病院で2年目研修医をしています。趣味は将棋、麻雀、そして今回のテーマである競馬。しがない研修医の苦悩と更生の物語をお楽しみください。ノンフィクションです。

私はギャンブル依存症について発表し、自分の惨状を症例として提示した。その場は大いに受け、大満足で発表を終えた。しかし、次の日、発表を見たある先生から突然呼び出され、「最近、躁病エピソードはないかい？」と聞かれた。問診されている、とすぐに分かった。躁うつ病患者で衝動的に賭博にはまる場合があるため、鑑別のために質問をされているのだ。突然の問診タイムに面食らったが、聞けばその先生自身がギャンブル依存に数十年間悩まされ、最近克服したのだという。まだ私の競馬収支は黒字であったが、このまま続けると生活に支障が出かねないと心配してくださった先生が、見るに見かねて呼び出してくれたのだ。自分ようになってほしくない、と真剣に言われた。面白半分で自分のエピソードを発表し、この生活に何の反省も危機感もなかった自分が恥ずかしくなった。それからというもの、再び週に5,000円まで、という健康競馬ライフを楽しんでいる。

さて、ここからは蛇足になるが、私は決して馬が好きで競馬を見ているのではない。「この馬を応援している」「この馬がかっこいい」といった感覚は全くない。そういう意味では野球、サッカー観戦とは大きく異なる。ある芸人が言っていた、競馬は「お金が走っている」とはよく言ったもので、的を射ていると思う。ただ、そんな私が唯一、お金を賭けてもなにも心に動かされたレースがある。2006年の有馬記念である。ディーブインパクトが引退するこのレースを、何の気なしにYouTubeで見た。衝撃を受けた。名馬が揃うこのレース、中団に居たディーブインパクトが最終4コーナーにかかったところで爆発的な加速を見せる。まさに衝撃の末脚で名馬たちをあっという間に置き去りにし、完勝した。実況にもあったが、ディーブは“翼”を広げ飛んでいるようにしか見えなかった。日本が誇る最強馬の圧倒的な走りには、賭博の域を超えた感動があった。当エッセイを読んで下さっている皆様も、お時間ある時にぜひ一度ご覧いただければと思う。

まとまりのない内容となってしまいましたが、以上エッセイとさせていただきます。ご高覧頂きありがとうございます。ありがとうございました。